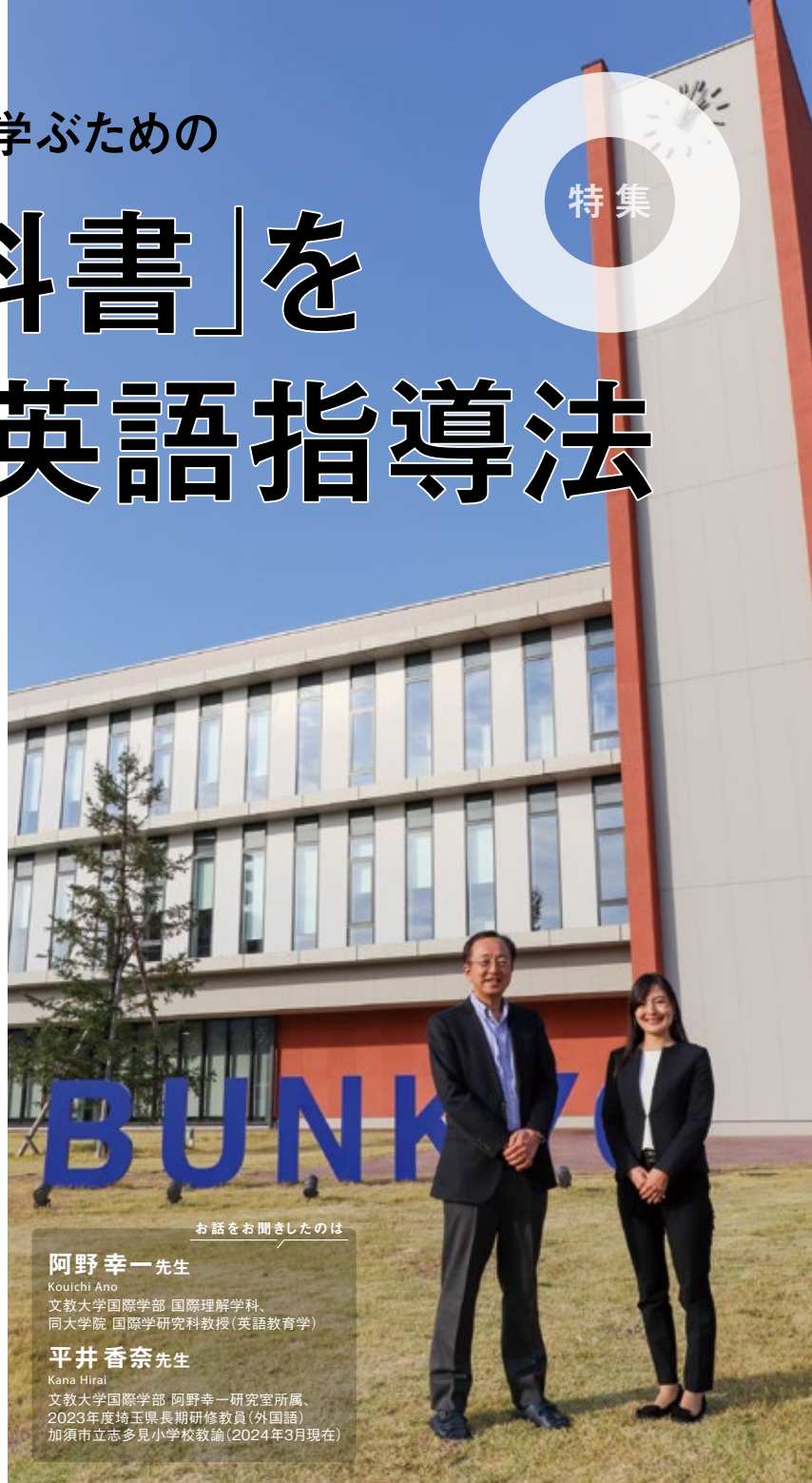


子どもがより主体的に、楽しく学ぶための

# 「新しい教科書」を 生かし切る英語指導法

2024年度から小学校では、新しい教科書による指導が始まります。中でも英語科は、デジタル教科書の本格的な導入によって、指導法の工夫が求められます。そこで今回は、文教大学の阿野幸一先生のもとにお邪魔しました。阿野先生といえば、NHKラジオ講座『基礎英語』やNHKテレビ高校講座『英語コミュニケーションI』で講師として活躍されたことをご存知の読者も多いでしょう。同じく先生の研究室で英語教育について研修中の小学校教師、平井香奈先生にもご登場いただき、デジタル時代の英語教育についてお話をうかがいました。

取材・文 ● 甲斐ゆかり(サード・アイ) イラスト ● あきんこ



お話を聞きしたのは

阿野 幸一 先生

Kouichi Ano  
文教大学国際学部 国際理解学科、  
同大学院 国際学研究科教授(英語教育学)

平井 香奈 先生

Kana Hirai  
文教大学国際学部 阿野幸一研究室所属、  
2023年度埼玉県長期研修教員(外国語)  
加須市立志多見小学校教諭(2024年3月現在)

——2024年度からは、デジタル教科書の本格的な導入など、英語学習に新たな要素が加わります。英語に対する興味関心や学力の度合いは、子どもたちによって様々なようです。そんな子どもたちが皆が主体的に学べるような英語の授業づくりのためのアドバイスをいただきたいです。

**平井先生(以下平井)** まずは、単元末でどんなことができるようになってほしいかを考えて、導入の活動内容を設定します。子どもたちと、目標とする表現を使ったやり取りをした後に音声を聞かせると(逆も可)、理解が進みやすいです。

**阿野先生(以下阿野)** 小学校の英語は、

表現を「覚える」ための時間ではありません。その単元で扱っている題材に興味をもつこと、そして、「こんなことが言えたらいいね」という表現を共有することが大切になります。それがわかれば、次の練習のパートで「こんな表現を使えば、こんなことが言える」とイメージをもって取り組むことができるでしょう。

**平井** 子どもの理解の仕方には差がありますから、練習のときには、一人ひとりの状況に応じて支援していく必要があります。

——どんな支援が必要でしょうか。

**平井** 焦って一気に教え込もうとすると子どもは混乱するので、子どもに言わせ

言語活動の本質は  
「人対人」  
学校で学ぶことの  
意味はそこにあるのです  
——阿野先生





## 積み上げた実績は 自分だけのものにせず どんどん共有して いきましょう

——平井先生

ようとすると、教師がその時間に身につけてほしい表現を自ら使うことだと思えます。例えば、What color do you like?に対して、自信がなくてBlueと単語だけで返す子どもがいても、教師が「I like...」という表現を繰り返すことで、耳にはエコーのようにそのフレーズが入っていきます。

**阿野** 練習のパートや次の言語活動のパートでうまくできない子がいたら、柔軟に前の内容に戻ること大切ですが、——メモ欄の内容などは、教師が途中で確認したほうがよいですか。

**平井** 問題を解いているわけではないので、日本語での記入欄を評価の対象として見る必要はないかなと思います。聞き

とった後にみんなで確認し合う用途として捉えればよいのではないのでしょうか。

**阿野** 添削的な視点で「できないところ」を追いかけるのではなく、「ここまですべて書いているな」という視点で見ることができればよいですね。

——ALITには、どこまで頼めばよいでしょうか。

**平井** 打合せの時間を確保するのはなかなか難しいかもしれませんが、会話のモデルになってもらうなど、発音の部分で活躍してもらえよう、相談するとういでしょう。

ちなみに、指導案については、少なくとも自身で作成したものは、残しておくのが大切だと思います。子どもの実態はその年によって違いますが、指導案のベースがあることで、負担感は随分軽くなるはずで、積み上げた実績は自分だけのものにせず、どんどん共有していったほうがいいです。

**阿野** 野球にたとえるなら、ALITは選手で、担任は監督。もちろん、プレイングマネージャーでもよいのですが、技術面を見ると、監督よりも選手のほうが圧倒的にうまいでしょう。だからこそ、たくさん活躍してもらいましょう。子どもの会話に直接入ってもらい、担任はそれをマネジメントする。授業の講評も共有して、コミュニケーションを取っていきましょう。

——今年度から導入されるデジタル教科書は、どのように使うとよいでしょうか。

**平井** 英語だけでなく、授業の様々な場

面でICT教材が増えてきましたよね。私自身は、デジタル教材は、クラス全体というよりも、個人で使うとき用として捉えています。学習状況には個人差がありますが、デジタル教材はまさにそのニーズを満たすのに向いています。

一方で、英語学習の目標は、人と人がやり取りをすることであり、相手の考えを知ることです。そこを忘れずに、ただコンテンツを使いこなすことが目的にならないように気をつけています。

**阿野** 生成AIは、入力した質問に対して、まるで生身の人間のような返答を返してきます。しかし果たして、そこにコ

ミュニケーションは成り立っているのでしょうか。How are you?とたずねて、友達が「He」と返してくれば嬉しいけれど、コンピュータはその喜びを感じないでしょう。

コミュニケーションは人と人との間のもの。だからこそ、学校で学ぶ意味があります。AIは、あくまでコミュニケーションの練習をするためのツールではないこと。それを理解して活用してください。

たとえばどんなにテクノロジーが発達しても、言語活動の本質は変わらないと思います。

### デジタル教科書導入の経緯

2020年度から実施された新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善や、特別な配慮を必要とする児童生徒等の学習上の困難低減のため、学習者用のデジタル教科書を制度化する法令が2019年4月から施行されました。これによって、必要に応じて紙の教科書に併用してデジタル教科書が使用できるようになりました。

その後デジタル教科書は中央教育審議会における議論を踏まえ、段階的に導入することが予定されています。中でも英語は、2024年度から全ての小中学校等を対象に、小学校5年生から中学校3年生に対して提供されます(予算は18億円)。



デジタル教科書では、拡大縮小、ハイライト、共有、反転、リフロー、音声読み上げ、総ルビ、検索、保存などが可能なことから、教育活動の一層の充実が期待されています。また、動画やアニメーション、ドリル・ワーク、参考資料などのデジタル教材と一体的に使用することも可能です。

さらに視覚障害のある児童生徒による、拡大機能や音声読み上げ機能の活用、発達障害のある児童生徒による、音声読み上げ機能や、文字の大きさ、背景色、テキストの色、行間・文字間隔の変更機能の活用など、特別支援教育による活用も期待されています。

# 新教科書、どう活用する？ 場面別のポイント

2024年度からの教科書を使用した指導について、  
お二人の先生からアドバイスをいただきました。ぜひ参考にしてください。

## 2 児童同士のやり取り



**Q** 新しい教科書は、音声や動画で新しい表現を学習（聞き取り）、それを使って児童同士がやり取りをする流れになっています。新しい表現を理解しきれない児童、発音の仕方がわからないなど、自信がない児童に対して、どのような手当が必要でしょうか。

例えば、発音の仕方を覚えられない児童は、英文にフリガナをふるよう指導してもよいでしょうか。（編集部）

### A 「目」からよりも 「耳」からインプット —— 阿野先生

小学校の英語学習は、自分が言いたいことを言うための表現の仕方を知り、使うことを目的としています。まずはそのことを押さえておきましょう。

その上で、授業は自分が言いたいことを言うためのリハーサルだと考えます。習った表現の型のほうに自分を当てはめていくのではなく、自分の好きなものや伝えたいことを言うための表現の仕方を学んでいく。文字からではなく、耳から繰り返しインプットしていくと、伝える表現は自然と身についていくでしょう。

### A 子どもの聞いたままを大事にして —— 平井先生

子どもに対してインプットが多く、アウトプットを急がせると、フリガナが必要なケースが出てくるかもしれません。小学校の英語学習では、表現を自然なおしゃべりの中で身につけることが大切です。教師は、子どもたちの「言いたい気持ち」を大事にするためにも、インプットするレベルの見極めが必要になります。

発音を文字として認識せざるを得ない場合には、大人の情報に惑わされないことが大事。子ども自身が聞こえたままの音でインプットしたほうがよいですね。音をたくさん聞いて、口に出す。それが小学校の学習です。

## 1 導入



**Q** 新しい教科書では、スモールトーク、チャンツ、英語の歌など、各社コンテンツが豊富に準備されています。これらを機械的にこなすのではなく、児童の興味をひくためには、どのように取り組めばよいでしょうか。

また、デジタル教科書を使用する場合は、各コンテンツの関連動画を個人で視聴することができますが、どこまでをクラス全員で、どこまでを個人で視聴するとよいでしょうか。（編集部）

### A 状況に合わせて 自分でアレンジしよう —— 阿野先生

新しい教科書には、確かに様々なコンテンツが用意されています。しかし、それらを全て、必ずやる必要はありません。

多くのコンテンツが準備されている理由は、先生方に、子どもたちの様子を見ながら、状況にあったものを取捨選択できるようにするためです。先生方には、それらをどのように使うか、創意工夫するための材料が用意されていると考えていただくとよいですね。

例示についても、「その通りに実践してください」という意味ではなく、あくまで参考例と考えていただくとよいでしょう。

### A 単元の目標から 指導の内容を考えて —— 平井先生

私の場合、関連動画は最初はクラス全体で見て、その後、子どもたちが個人で学習する時間を、たとえ短い時間でも必ず設けています。このように、動画は個別最適化の学習の中で使うことができると思います。

また、動画は家庭で見ることできます。ですから、学び方を教える際、デジタル教材と合わせて使うことも多いですね。デジタル教材は音声が出るので、聞きながら学習をすることができます。

どのような言語活動を行うかは、単元の目標から遡って考えます。何のためにこの練習をするのか、ある程度のゴールを設定するとよいでしょう。

## 新年度、授業に向かう先生へのメッセージ



英語は、自分の世界を広げるための「窓」。小学校のうちにも、ぜひ子どもたちの「窓」を開いてあげてください

● 阿野 幸一 先生

英語の授業では、他教科の授業ではわからなかった、子どもたちの新しい一面を知ることができます。「誕生日」や「好きな色」「行ってみたいところ」など、日本語ではしない会話をたくさん交わすことができるからです。

それは、子どもたち自身も同じです。日本語でのコミュニケーションがあまり得意ではなかったのに、英語の授業でたくさん会話ができ、友達関係が広がることもあります。

いつも日本語で暮らしている日常を英語で過ごしてみると、いつもとは違う景色が見えてきます。それは、自分という世界に開いた、新しい「窓」のようなもの。小学校の英語で小さな窓を作っておけば、中学校に進んだとき、そこから新しい風が吹き込んでくるかもしれません。

どうか、英語の授業を一緒に楽しんでください。先生自身の「窓」も、新しく作っていきましょう。

「伝わるって楽しい」  
これは、先生自身にも  
言えること。  
ぜひ楽しみながら  
取り組んでほしいです



● 平井 香奈 先生

これまで日本語でしか会話をしてこなかった子どもたちが、いろんな国の子どもたちのことを知り、「日本は世界の中のひとつの国である」と実感する時間の始まりが、小学校での英語学習だと思います。

日本語でも英語でも、伝え合うことって大事。子どもたちには、自分の思いを既習の表現でどう伝えるか考え、少し間違ってもあきらめずに伝えようとする姿勢を身につけてほしい。そして「伝わるって楽しい」という思いをもって中学校に進んでほしいです。

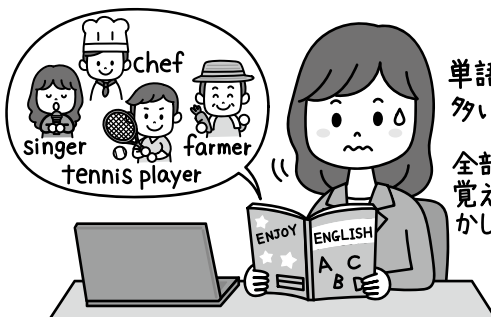
教科書が新しくなり、準備することもたくさんありますが、子どもたちは「先生のことを知りたい」と思っていることが多いので、ぜひご自分のことについても英語で伝え合うやり取りをしてもらいたいです。

時にはALTの力を借りながら、自分が英語を「使おう」とする姿勢が大切だと思います。

どうもありがとうございました!



## ③ 単語学習



単語数が  
多いなあ…

全部  
覚えさせる  
かしら…

**Q** いくつかの教科書に付属している「Picture Dictionary」には、教科書本文に出てきた単語だけでなく、それらに関連した単語も多数掲載されています。ほとんどの教科書で、現行版よりも掲載単語数が大なり小なり増加しました。児童が主体的に単語を覚え、活用するようになるためのコツ、一度覚えてから忘れないようにするためのコツを教えてください。(編集部)

## **A** 表現を身につける 学びの階層に目を向けよう — 阿野先生

「単語を覚える」ことにはいくつかの階層があると思います。小学校では、耳で聞いたり目で見たりして意味がわかり、発音ができるところまでを「覚える」として求められますが、最終的には、あくまで自分が伝えたいことを伝えるために自発的に使うことができるようになってほしいです。自分が伝えたいことなので、全ての単語を使いこなす必要はないと思っています。「Picture Dictionary」は、使う可能性のあるものを掲載していると考えてください。

## **A** 子どもの表現したいことを大切に — 平井先生

小学校で登場する単語はたくさんありますが、「覚える」ことに注力するのはではなく、自分の好きなものや伝えたいものを「Picture Dictionary」から選んで言うことができればよいのではないのでしょうか。単語を覚え込むよりも、いろいろな単語を聞き、それが蓄積されていくことが大切ではないかと思っています。

例えば曜日の単語などは、英語の授業が同じ曜日にありますから、「今日は何曜日」と聞いても、同じ単語しか登場しません。それよりも How about yesterday? など、質問の仕方を工夫するなどしていきたいですね。

▼言語活動の実写動画  
 (光村図書「国語四下 はばたき」[「クラスみんなで決めるには」の教科書運動QRコンテンツより])



# 主要教科改訂のポイント

ここでは、主要教科ごとに、今回の教科書改訂のポイントを解説します。

## 国語

POINT

言語活動を助けるコンテンツが充実

### 二次元コードが大幅に増加

各社に共通する変化は、二次元コードの数が増加したことです。いずれも掲載数は1000点以上ののぼり、増加率では10倍を超えるものも見られました。

掲載事項としては、言語活動に重きを置いたものが多い印象です。デジタル教材を主体とした学びというよりは、従来の教科書を中心とした学びを補足・強化するものとして、学習内容を軽く確認する内容のものになっています。

▶作品に関する資料  
 「教育出版」ひろがる言葉 小学国語「六下」の「まなびリンク」(ページより)



**プログラミング的思考やメディアリテラシーも扱う**

その他の特徴として、プログラミングに関連する内容が新設されています。例えば、プログラマーによるエッセイ、プログラミング的思考について学ぶ資料が掲載されています。

また、メディアリテラシーについて学ぶ教材も充実しています。新聞記事の構成や、全国版と地方版の比較のほか、インターネットの長所・短所について述べた文章など、多様なメディアに接する社会状況を反映していることがうかがえます。

### ①動画

言語活動の実写動画(スピーチ・話し合いなど)／作者のインタビュー動画／音読動画／資料動画／筆順アニメーション

### ②画像

「書くこと」の作例／「書くこと」に役立つ統計資料／ワークシート／作者紹介／作品の続きが読める

### ③問題

キーボード入力練習／漢字練習問題

二次元コードの内容例

## 算数

POINT

デジタルメディアを有効に使い「数学的な見方・考え方」を視覚化

### 二次元コードがデジタルコンテンツが大幅増

全社の教科書に二次元コードが導入され、中には1学年あたり200以上を掲載したものもありました。ただし教科書本文からリンク先に移動した内容はなく、あくまでプラスアルファのコンテンツとして位置付けられています。例としては、次のようなものがあります。

### ①説明動画

(円のかき方、コンパスの使い方など)

### ②シミュレーション

(数直線操作など)

### ③作成ツール

(表、グラフの作成)

### ④補充問題

(教科書の練習問題、ヒントや解説つき)

### ⑤プログラミング

二次元コードの内容例

### 社会環境の変化に合わせたテーマが充実

社会環境の変化に合わせてつつ、算数の学びを日常生活の場面で活用するページが充実しました。例えば、情報モラルをテーマとしたページがあります。具体的には、

日常生活で目にするデータを、批判的に見る目を養い、正しく情報を読み取る学習や、資料を引用するときの表記の仕方、パスワードの大切さなど、情報の扱い方の学習ができるようになっていきます。また、プログラミングに関するページが大幅に増えました。さらに、災害対策への意識を高めるような内容や、SDGsなど、様々な題材が扱われています。

**1年次のスタートアップを手厚くフォロー**

1年の導入時に使用する教科書の判型が、ほとんどの教科書で大判になり、ページ数が少なくなりました。また、書きやすい紙質を選択するなど、ノートやワークシート不要のオールインワン型が登場しています。

**「数学的な見方考え方」を働かせるための工夫が多様化**

各社で、数学的な見方・考え方をより統合的、発展的に養うための工夫が多様化しました。例えば、課題解決のための数学的な味方・考え方を紙面内のキャラクターの吹き出しや補助発問に入れ込む量の増加、特集ページの新設などが見られます。

# 理科

POINT

デジタルコンテンツを充実させ、  
学びやすさを追求

## 二次元コードが大幅に増える

二次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツが大幅に増え、各教科書とも3桁にのぼっています。

コンテンツは、大きく「インタラクティブ系（自分で操作でき、主体的な活動が可能）」と「動画」があります。前者はシミュレーションやプログラミング、360度可視化操作可能ななどが登場

場。後者には実験・解説動画などが用意されています。

## 問題解決までの流れが捉えやすくなった

各社、問題解決の過程をわかりやすくするため、オリジナルのアイコンを使用。より問題解決の流れを意識させる紙面になっています。また、各学年で特に身につけたい力がどの部分なのかをわかりやすいように工夫されています。

## 防災・減災教育を意識

地震や水害などの災害を自分ごととして捉えるための工夫が見られます。対話を通し、備えることの重要性を認識できるような特集を設けているものもあります。



▲双眼実体顕微鏡の使い方の動画  
(大日本図書「新版たのしい理科」のウェブコンテンツ「観察・実験に役立つコンテンツ」より)

# 英語

POINT

判型が拡大。コンテンツも拡張し、  
取り組みやすさを重視

## 英単語数が大幅増

ほとんどの教科書で英単語数が約50〜130程度増加しています。また、二次元コードで未掲載の英単語を確認できる教科書もあります。

## デジタルコンテンツが拡張

二次元コードで、音声の確認のほか、単元の冒頭のストーリーをアニメーションで確認できたり、ふり返りのワークノートを追加したりするところが見られます。新たに Picture Dictionary を付けた教科書もあります。

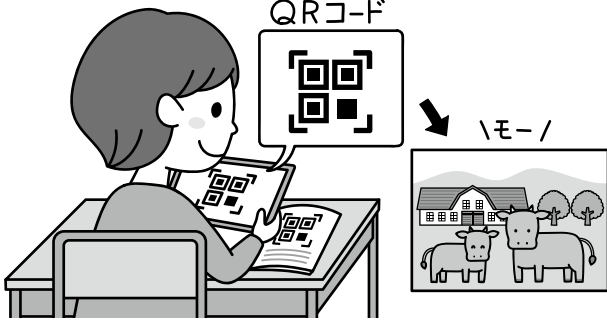
## 多くが判型を拡大

教科書の判型を A B 版から A 版に拡大したところが多く見られます。

## ●英単語の数

教科書発行者	現行版	改訂版	増減
A社	697	825	+128
B社	651	757	+106
C社	623	668	+45
D社	775	668	-107
E社	734	712	-22
F社	741	784	+43

申請図書における単語数として各発行者が文科省に提出した数を基に作成



# 社会

POINT

社会事情に対応しながら、問題解決  
学習をより深められる内容に

## 社会的な見方・考え方を 深める構成に

問題解決学習の流れ（つかむ↓調べる↓まとめる）がより目立つようデザインされ、学習の流れがわかりやすくなりました。同時に「社会的な見方・考え方」をどう働かせるかのヒントを太字で示すなど、学びやすくなるような工夫が行われました。

## 二次元コードが増え、 デジタルコンテンツが充実

これまでは目次に1つ程度の二次元コードが、ページ内に適宜入るようにになりました。また、デジタルコンテンツの種類も増え、動画を始めとしてワークシート、デジタル資料、ウェブブラウザ上で操作するものなどが登場しています。

その他の内容では、SDGsの扱いが大きくなっています。

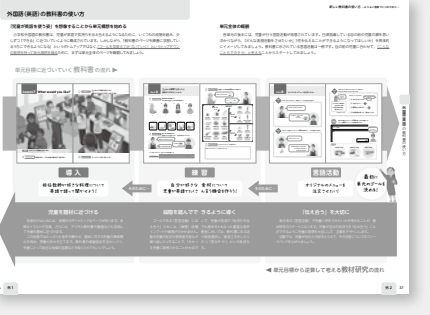
## 教科書の使い方をもっと知るために

公益財団法人教科書研究センターは、教科書のより効果的な使い方を示した冊子「『新しい』教科書の使い方」を刊行しています。ウェブサイトからもダウンロードできるので、授業の参考にぜひ活用してください。

[URL] <https://textbook-rc.or.jp>



◀各教科書会社のURLも一覧で紹介。必要な情報にアクセスしやすい構成となっています。



▶こちらは英語の例です。必要な教科の部分を選んでダウンロードできます。